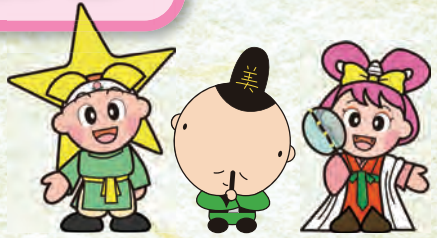




かたみくん  
ももち・うらうちと  
一緒に、古代美作の  
文化財を学ぼう！

# 古代美作の 文化財をたずねる



岡山県マスコット  
ももち

美作国キャラクター  
かたみくん

岡山県マスコット  
うらうち

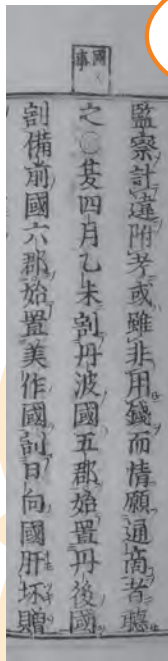


# 美作国の誕生

へいあん 平安時代の初めに完成した歴史書『続日本紀』  
しよくにほんぎ  
にある、和銅6年4月3日(旧暦です。現在使用して  
わどう きゅうれき  
いる太陽暦だと、713年5月1日になります。)の  
記事に、「備前国の六郡を割きて、始めて美作国を  
置く」とあります。このとき備前国から分割され  
みまさか  
美作国となった6郡は、英多郡、勝田郡、苫田郡、  
あいだ かつた とまた  
くめ おおば ましま  
久米郡、大庭郡、真嶋郡です。現在の津山市、真庭市  
の大半、美作市、新庄村、鏡野町、勝央町、奈義町、  
西粟倉村、久米南町、美咲町の大半、そして岡山市  
北区の一部と兵庫県佐用町の一部に当たります。  
てんびょうじんご  
なお766年(天平神護2年)までは、和気町の一部  
も美作国でした。7世紀後半には備前・備中・備後  
びちゅう びんご  
の3国が成立していたと考えられますから、それより  
やく 遅れての建国です。遅れた理由としては、吉備  
おく きび  
勢力の力を一層弱めるためという考えや、都へ直結  
する道路の整備が遅れたためという考えなどがあります。

さて、美作建国より前のこの地域では、古墳時代を通じて100mを超えるような大きな古墳は作られませんでした。このことは、美作地域全体を治めるような、大きな力を持った豪族がいなかったことを示していると考えられています。日本に仏教が伝わったころ早く  
あすか  
飛鳥時代になると、備中地域、やや遅れて備前地域でも寺院が造られるようになりますが、この時期の寺院のあとと、美作地域では今のところ見つかっていません。しかし、7世紀後半以降の白鳳時代には、美作地域の各地で寺院が造られるようになり、特に英多郡(現在の美作市など)では、白鳳時代の寺院あとと思われる遺跡がいせき  
が6カ所も確認されています。1つの郡で6カ所も見つかっているのは、県内でもこの地域だけです。

美作国建国の  
記事です。  
(写真は江戸時代に  
印刷された本)



「続日本紀」  
所蔵：岡山大学附属図書館



美作建国後、国の政治・裁判を担当する役人のトップである美作国守には、備前国介（介は守に次ぐ役職）として、美作建国の仕事をした上毛野堅身（「かたみくん」のモデル）が任命されました。しかしこれは臨時的なもので、翌年には津守運通が任命されています。国の政治を執り行った役所があった国府は、現在の津山市総社地区にありました（3ページ）。また、8世紀中ごろに聖武天皇が命じて全国に建てさせた国分寺と国分尼寺は、どちらも現在の津山市内に置かれました（5ページ）。

今と同じように、当時の美作国もたくさんの特産品があったようです。『延喜式』という10世紀初めにできた本によると、美作国の人々が税金として納めたものには、鉄、鋏、絹、染めた糸、ごま油、染料として使用する茜、大豆、小豆、いのししの脂、鹿の皮、鮎の鮓などがあり、自然の恵みの豊かさを知ることができます。特に鉄の生産は盛んであったようで、これを裏付けるように、古代の製鉄所のあとも発見されており、6世紀後半から7世紀の初めに操業していた大蔵池南製鉄遺跡（津山市、15ページ）、8世紀半ばごろに操業していたキナザコ製鉄遺跡（津山市）などがあります。このほか、877年（元慶元年）に、真嶋郡加夫良和利山と大庭郡比智奈井山から銅が産出されたという記事があり、鉱産資源が豊富だったことが分かります。

それでは、今年建国1300年を迎えた美作国内に残っている、飛鳥時代から平安時代の文化財を訪ねてみましょう。



写真提供：奈良文化財研究所

現在の美作市湯郷あたりの「勝田郡塩湯郷（しおゆのごう）」から平城京へ送られた米につけられていた荷札（木簡）です。平城京の道路の側溝のあとから見つかりました。（この木簡は奈良文化財研究所にあります）





# 美作国府跡

(津山市総社ほか)

写真提供：津山市教育委員会



発掘調査で見つかった美作国府の建物のあと

713年(和銅6年)に成立した美作国の役所のあとで、津山城跡の北西にあります。およそ650m四方の広さがあったと推測されており、国府の最も中心が現在の国府台寺付近、西の端が総社宮付近と考えられています。これまでの発掘調査で奈良時代や平安時代の建物や井戸のあとが発見され、多数の土器や瓦、硯、木製品などが出土しています。



国府台寺にある「国府遺址碑（こくふいしひ）」



この土器に記されている「少目(しょうさかん)」は、上毛野堅身が美作国守を辞任した後に置かれた役職です。

所蔵：津山市教育委員会

所蔵：津山市教育委員会 / 写真提供：県古代吉備文化財センター



美作国府跡で見つかった墨で書かれた文字のある土器



美作国府跡で見つかった硯（蹄脚硯）

このころ使われていた硯は、円い形をした円面硯(えんめんけん)、「冂」の形に似た風字硯(ふうじけん)などがあります。また、かたい土器の破片なども硯の代わりに使っていました。この硯は円面硯ですが、ひずめ形の足をもつことから蹄脚硯(ていきやくけん)と呼ばれています。



このほかにもある古代の役所あと



こうもと  
**高本遺跡** (美作市川北)

約200m四方に17の建物が発見され、出土した土器には「郡」の字が墨(すみ)で書かれたものもありました。英多(あいだ)郡の役所の可能性が考えられています。

かつまだ たいら  
**勝間田遺跡・平遺跡** (勝岡町勝間田)

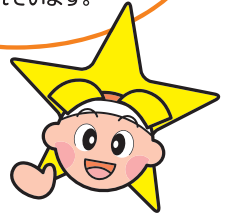
建物や溝などが発見されるとともに、「郡」の字や「勝」の字が刻まれた土器などが出土しています。勝田郡の役所と考えられています。

みやお  
**宮尾遺跡** (津山市宮尾)

久米廃寺の東にあり、土器や硯などが出土するとともに、「コ」の字状に並んだ建物などが発見され、久米郡を治める役所と考えられています。

こおり  
**郡遺跡** (真庭市鹿田)

奈良時代から平安時代の建物が発見され、土器や硯などが出土しています。真嶋(ましま)郡の役所の可能性があります。



周辺図



# 美作国分寺跡 (津山市国分寺〈国史跡〉)

写真提供：津山市教育委員会



発掘調査で見つかった美作国分寺の塔のあと

741年(天平13年)、聖武天皇は国分寺建立の詔を出しました。これは、仏教の力で日本の国じゅうが幸せになることを願って、当時の国ごとに国分寺と国分尼寺を建設するというものでした。岡山県では、美作、備前、備中の三カ国に設置されました。大仏で有名な奈良の東大寺が、国分寺の総本山でした。国分寺はとても広い敷地のお寺で、七重塔をはじめ、たくさんのお堂が建てられました。

美作国分寺は、現在の津山市国分寺に作られました。約200m四方の敷地をもち、大きなお堂が南北に並んだ立派なお寺で、平安時代の終わりまでありました。

武士の世の中になった鎌倉時代が室町時代に失われ、江戸時代に再建されました。

国分尼寺は、部分的にしかりわかりませんが、国分寺よりも少し小さく、国分寺の西側にあったようです。

所蔵：津山市教育委員会／写真提供：津山郷土博物館



美作国分寺の礎石



奈良時代の美作国分寺の瓦（軒丸瓦）



ハスの花がデザイン  
されているよ。

所蔵：津山市教育委員会／写真提供：津山郷土博物館

これは瓦(かわら)の文様だよ。



奈良の都の瓦の文様に  
よく似ているよ。



奈良時代の美作国分寺の瓦  
(軒平瓦)

## 周辺の施設



### 津山郷土博物館（津山市山下92）

美作国府跡・美作国分寺跡等の出土品や津山城に関する資料などを展示しています。

**開館時間** 午前9時～午後5時

**休館日** 月曜日、祝日の翌日、12月27日～1月4日

**問い合わせ** 0868-22-4567

## 周辺図





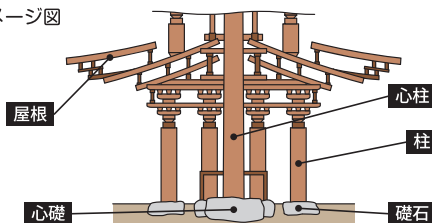
えみはいじ  
**江見廃寺** (美作市藤生〈礎石は市史跡〉)



江見廃寺の礎石

7世紀末から8世紀初めごろに建てられた寺で、江見小学校の北西約300mの吉野川右岸にあります。現在は、田んぼや畑などになっていますが、建物の礎石(土台として建物の下に置く石)が一つ残っています。礎石は長さ約2m、幅約1.5mの大きなものです。1973年に一部を発掘調査した時には、建物の屋根に葺かれていたと考えられる、たくさんの瓦も出土しています。

●建物断面イメージ図



当時は、写真の石の上に直径50cmほどの建物の柱が立っていたようです。



周辺図



だいかいはいじ

# 大海廃寺 (美作市山手〈心礎は市史跡〉)



大海廃寺の塔の心礎

写真の塔の心礎は、長さ約1.7m、厚さ約60cmもある大きなものです。



7世紀後半ごろに建てられた寺で、吉野郵便局の南西約1kmの吉野川右岸にあります。現在は、薬師堂というお堂の前に塔の心礎（塔の中心の柱の礎石）が当時の位置のまま残っています。1987～1988年に発掘調査が行われ、塔や金堂（本尊を納めるお堂、本堂）、門、塀などのあとが見つかっています。寺の範囲は南北約130m、東西約105mだったようです。たくさんの瓦や鴟尾（宮殿や寺院の大棟の両はしを飾るもの）なども出土しています。

## 周辺図





# 久米廃寺

(津山市宮尾 〈県史跡〉)



久米廃寺の塔の心礎

国道181号沿いにある道の駅「久米の里」の北西にあり、7世紀後半ごろに作られ、平安時代前期ごろまであったと考えられます。

1969年から翌年にかけて発掘調査が行われ、寺の大きさは東西約130m、南北約110mで、中央に塔があり、東に金堂（本尊を納めるお堂、本堂）、西に講堂（講義をする建物）が配置されていることが分かりました。出土した物の中には、粘土で作られた仏像の破片などもありました。現地には、東西2.1m、南北1.5mの塔の心礎（塔の中心の柱の礎石）が残されています。



久米廃寺で発見された瓦（軒丸瓦）

所蔵：津山市教育委員会  
写真提供：津山郷土博物館



## 久米廃寺で見つかった仏像の顔

所蔵：津山市教育委員会 / 写真提供：津山郷土博物館



所蔵：津山市教育委員会  
写真提供：津山郷土博物館

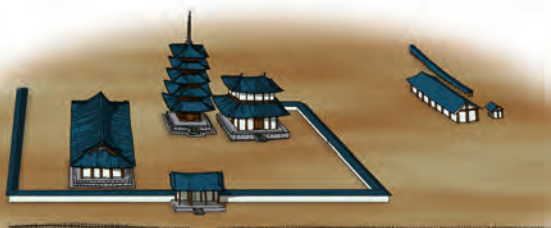


粘土(ねんど)で作られた仏像のことを塑像(そぞう)といい、8世紀に流行しました。有名な東大寺法華堂執金剛神像(とうだいじほつどうしつこんごうしんぞう)なども塑像です。



久米廃寺で見つかった「せん仏」  
(仏像をうきぼりにしたタイル風のレンガ)

## ●久米廃寺復元想像図



発掘調査の結果から  
このお寺をイメージすると、  
このような姿になります。



## 周辺図



# 五反廃寺 (真庭市三崎 (市史跡))



五反廃寺周辺

写真の瓦には、蓮蕾文や忍冬文が見られます。これらの瓦は、ほかに類似した例はなく、朝鮮半島との関係が考えられています。



五反廃寺で見つかった瓦 (軒丸瓦)  
所蔵：真庭市教育委員会 / 写真提供：津山郷土博物館

久世中学校の東約200mの低い丘の上にあり、7世紀後半から9世紀ごろまであったと考えられています。寺の大きさは、約109m四方と推定されています。

寺のあとからは、礎石 (建物の土台にする石) や多数の瓦が発見されています。発見された瓦の中には、県内では他に例のない、蓮蕾文 (蓮の花びらがつぼみの形をした文様)、忍冬文 (すいかずらの文様)、菊花文 (菊の花の文様) のあるものがあります。



# 弓削廃寺

(久米南町下弓削〈心礎は町重要文化財〉)



蓮久寺にある弓削廃寺の塔の心礎

弓削小学校付近にあり、7世紀末から8世紀初めごろには、存在していたと考えられています。寺の詳細は不明ですが、蓮久寺の門前に、塔の心礎（塔の中心の柱の礎石）が移されています。

このほかにもお寺のあとが  
見つかっているよ。



いまおが  
**今岡廃寺** (美作市今岡)

かつて、礎石がありました。割られて石垣に使われたといわれています。寺の大きさは約100m四方で、瓦(かわら)などが見つかっています。

どい  
**土居廃寺** (美作市土居)

JR姫新線美作土居駅の東方約400mにあり、旧土居小学校の敷地から、瓦や鷲尾(しび)などが見つかっています。

ならはら  
**稻原廃寺** (美作市稻原中〈市史跡〉)

美作北小学校の東にあり、発掘調査で2棟の建物や瓦を焼いた窯が見つかっています。

## 周辺図





# 中山神社

(津山市一宮 〈本殿は国重要文化財〉)



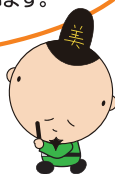
中山神社 (中央が本殿です)

平安時代後期になると、「一宮」「二宮」などと国ごとに国内の神社を格付けするようになります。美作国の一宮が、この中山神社です。現在の本殿は、1559年(永禄2年)に再建されたもので、国の重要文化財に指定されています。

平安時代になると、国司(こくし) (諸国に派遣(はけん)された役人) の参拝に便利のように、国内の神社に祭られている神を1カ所に集めた「総社(そうじゃ)」と呼ばれる神社が作られます。下の写真は1562年(永禄5年)に再建された美作国の総社の本殿で、国の重要文化財に指定されています。



総社本殿



## 周辺図



# 唐臼墳墓群

(美咲町打穴西〈県史跡〉)



唐臼墳墓群にある奈良時代の墓（写真左の大きな石がふた、右の大きな石が身です）

JR津山線亀甲駅から約4.5kmのところにある、奈良時代の墓です。正方形をした二段の盛り土（下段約6m、上段約5m四方）の中央に、直径約23cmの穴が空いた石が置かれています。この穴に、火葬された骨を入れた容器が納められ、ふた石が置かれていたと思われませんが、容器は見つかっていません。

周辺には、横穴式石室がある古墳が3基あります。





# 大蔵池南製鉄遺跡 (津山市神代)

津山市加茂町黒木にある  
キナザコ製鉄遺跡（市史跡）は、  
8世紀半ばごろに操業して  
いたと考えられ、製鉄炉のあとが  
見つかっています。



大庭(おおば)郡・真嶋(ましま)郡（今の真庭市の大半と新庄村など）は庸(よう)  
（税金の一種）として米を納めていましたが、728年（神亀(じんぎ)5年）4月に  
運送に不便であることを理由として、綿と鉄にかえることが認められています。  
美作で鉄の生産が盛んだったことが分かるね。



斜面(しゃめん)をけずって平らにした場所に、製鉄をした炉(ろ)のあとが6つ確認されました。時代は  
6世紀後半から7世紀の初めと考えられています。炉にはふいごから人工的に送風されていた  
ようで、材料には砂鉄が使われていました。調査の後、現地(うち)は埋め戻(もど)され保存されていますが、  
津山市久米歴史民俗資料館に製鉄炉跡(ろあと)の一つ（4号炉跡）  
の模型が展示されています。

## 周辺の施設



### 津山市久米歴史民俗資料館 (津山市中北下1271)

展示品には、久米廃寺出土の瓦(かわら)、土器や仏像の破片(はへん)、宮尾遺跡出土の墨(すみ)で文字を書いた土器などが展示されています。

**開館時間** 午前9時～午後5時

**休館日** 土・日、祝祭日、12月28日～1月4日

**問い合わせ** 0868-57-2936 (久米公民館)

## 周辺図





ほ だい じ

# 菩提寺のイチヨウ (奈義町高円〈国天然記念物〉)

写真提供：奈義町教育委員会



このイチヨウには、法然が「学業成就」を願いさせたイチヨウの杖が成長したとの伝説があります。



菩提寺は、浄土宗を開いた法然が修行した寺院と伝えられています。境内にそびえ立つイチヨウの巨樹は、高さ約40m、目の高さの位置の幹の太さ約13mで、イチヨウとしては全国屈指の大木です。年齢は約900年と推定されており、美作国1300年の移り変わりの多くを見守り続けたこととなります。

## 周辺図



# 奈良・平安時代の指定文化財

もくぞうじゅういちめんかんのりゅうぞう

## 木造十一面観音立像（美作市林野・安養寺〈国重要文化財〉）

高さ約109cm、<sup>よせぎ</sup>寄木造で、<sup>おだや</sup>穏やかな顔つきの調和のとれた仏像です。<sup>へいあん</sup>平安時代後期の作品と考えられています。普段は公開されていませんが、33年に一度拝観できるそうです。

もくぞうだいいちにちりょうざいぞう

## 木造大日如来坐像（美作市角南〈県重要文化財〉）

平安時代後期の作品です。完全な<sup>いちぼく</sup>一木造で、<sup>うるし</sup>漆の上に金ばくが施されています。現在も地元の人から「大日様」と親しまれています。

もくぞうずいじんりゅうぞう

## 木造隨身立像（津山市二宮・高野神社〈国重要文化財〉）

隨身像は、神社の門の左右に配される武装した人物の像です。1162年（応保2年）に作られたことが、像の内部に<sup>すみ</sup>墨で記されています。口を開いた阿形は高さ約177cm、口を閉じた<sup>らんまよう</sup>吡形は高さ約179cmを測り、<sup>さいしき</sup>寄木造で<sup>ほどこ</sup>彩色が施されています。普段は公開されていません。

もくぞうしし

## 木造獅子（津山市二宮・高野神社〈国重要文化財〉）

高野神社には2組の木造獅子が伝わっています。1組は高さ約26cmで、12世紀ごろの作品です。<sup>ほ</sup>彫りは浅く、<sup>ふんいき</sup>穏やかな雰囲気を持っています。口を開いた阿形は金色の身体に<sup>ろくじょう</sup>緑青のたてがみ、口を閉じた吡形は銀色の身体に<sup>くんじょう</sup>群青のたてがみと考えられます。こちらは、岡山県立博物館に保管されています。

もう1組は高さ約68cm前後で、当初は硬い筋肉質の引き締まった姿が想定されています。作られた時期は、10世紀ごろと推定されています。

もくぞうしんごうかく てんこうせいひつ

## 木造神号額 伝行成筆（津山市二宮・高野神社〈国重要文化財〉）

ヒノキの板に、銅板で作られた「正一位高野大明神」の文字が<sup>くぎ</sup>釘打ちされています。<sup>さんせき</sup>三蹟（平安時代中期の3人の書道の名人）の一人、<sup>こうせい</sup>藤原行成の筆と伝えられていますが、はっきりはしていません。岡山県立博物館で保管されています。

もくぞう ふ どう に どうじ ぞう

## 木造不動二童子像（真庭市鹿田・勇山寺〈国重要文化財〉）

不動明王（高さ約187cm）、矜羯羅童子（高さ約144cm）、制吒迦童子（高さ約151cm）の3つの仏像からなります。どれも一木造で、10世紀ごろに作られたと考えられます。不動像の中では大型で、堂々とした姿をしています。普段は公開されていません。

もくぞうしやうかんのん の ひ ざ ぞう

## 木造聖観音坐像（真庭市勝山・明徳寺〈県重要文化財〉）

高さ41.6cmの小さい像ですが、気品を備えた優美な作品です。特に、にやうわ たんれい柔和で端麗な表情が見事です。岡山県立博物館に保管されています。

どうぞうしやうかんのん の ひりゆう ぞう

## 銅造聖観音立像（真庭市美甘・竹元寺〈県重要文化財〉）

高さ36.7cmの小さな像ですが、中国の唐の初めごろの様式にならった奈良時代前期の彫刻の特徴が現れています。作られた年代については、8世紀以降とする説もあります。

もくぞうじゅういちめんかんのん の ひりゆう ぞう

## 木造十一面観音立像（鏡野町中谷・弘秀寺〈県重要文化財〉）

高さ303cmの平安時代後期の作品で、岡山県内の平安時代の仏像としては最大級です。当時中央で一般的だった寄木造の手法を学習し、導入しようと努力していたことがうかがえる点で注目される作品です。普段は公開されていません。



明徳寺・木造聖観音坐像

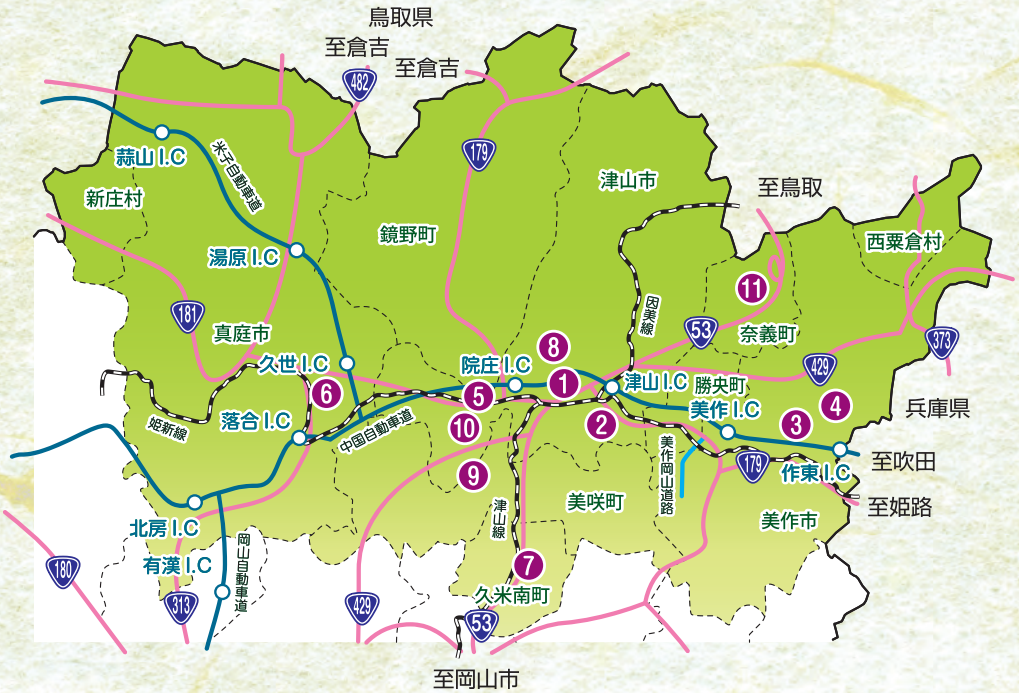
写真提供：県立博物館



所蔵・写真提供：県古代吉備文化財センター



## 所在マップ



① 美作国府跡

津山市総社ほか

② 美作国分寺跡

津山市国分寺

③ 江見廃寺

美作市藤生

④ 大海廃寺

美作市山手

⑤ 久米廃寺

津山市宮尾

⑥ 五反廃寺

真庭市三崎

⑦ 弓削廃寺

久米南町下弓削

⑧ 中山神社

津山市一宮

⑨ 唐臼墳墓群

美咲町打穴西

⑩ 大蔵池南製鉄遺跡

津山市神代

⑪ 菩提寺のイチヨウ

奈義町高円

発行日 平成25年7月16日

発行 岡山県教育委員会

編集 岡山県教育庁文化財課

〒700-8570 岡山市北区内山下2-4-6

電話 086-226-7601 (直通)

協力 岡山県古代吉備文化財センター、岡山県立博物館、岡山県立岡山城東高等学校、岡山市立西大寺小学校、岡山市立芳泉中学校、岡山大学附属図書館、津山郷土博物館、津山市教育委員会、奈義町教育委員会、奈良文化財研究所、真庭市教育委員会、明徳寺